



閉会中審査 新型コロナウイルス感染症対策

国民の命と安全を守るため、政府に新型コロナ対策を問う

政府は8月17日、新たに7府県を緊急事態宣言対象に追加（合計13都府県）、まん延防止措置の適用は16道県に拡大※する方針を決定しました。8月19日には内閣委員会（閉会中審査）が開催され矢田議員はこの最重要課題である新型コロナウイルス感染症対策について政府の対応について質しました。

※9月1日時点、緊急事態宣言の実施区域 21 都道府県、まん延防止措置の実施区域 12 県 期間は9月12日までとなっている。

質疑内容：①病床確保と臨時医療施設の新設 ②新型コロナウイルス感染症の5類への分類変更
③治療薬の早期承認 ④東京パラリンピックにおける対策の強化、等

質疑内容は、YouTube「やたわかチャンネル」からご覧いただけます。QRコードからアクセスをお願いいたします。



◆臨時医療施設の増設で重症化予防を

・感染状況が深刻化しており医療崩壊も間近に迫っている。継続的に求めてきた医療供給体制の整備、臨時医療施設の増設により重症化予防すべきだ。

・昨年と比べて病床は倍以上、さらに現在全国14の臨時医療施設を開設しており、引き続き医療提供体制の強化に総力を挙げて対応してまいりたい。

病床確保の状況：7月以降、国・自治体を挙げて全国1,400床の増加に取り組む中、自宅待機者は7万人を超える状況となっている。

・この異常事態、非常事態下においても特措法31条が発令できない状況にあり医療供給体制整備、人々の行動自粛への有効な対応に向けて国会を開き法改正を行うべきではないか。



矢田議員

・感染症法に同様の規定があり、大阪府などはそれにもとづいた病床確保に取り組んでおり、より実効性ある対策ができるよう現行法の下に厚労省と連携して、検討を続けていきたい。



西村大臣

特措法第31条（要約）：都道府県知事は、医療関係者の医療の提供の要請、さらには指示することができ、また、医療機関が不足する場合には臨時的医療施設を開設しなければならない。

◆命を守るために治療薬の早期承認を

・海外で多くの命を守ることができたと言われる治療薬について日本ではまだ治験中であり、個人で輸入するケースも増えている。自宅療養者の急変に備え命を守る観点からも早期承認を急ぐべきだ。



矢田議員

・治療薬については、科学的知見、データが不足しているという評価を受けている状況にあり、一刻も早くしっかりとした薬の開発を第一に努め、申請手続についても迅速にやっていきたい。



こやり厚労省
大臣政務官

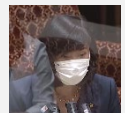
◆パラリンピックに向けては対策のバージョンアップを

・五輪関係者から多くの感染者が発生しており8月24日からはじまるパラリンピックでは、身障者の方々がプレーされることから十分な感染対策、ガイドブックにおいてもバージョンアップした見直しが必要だ。



矢田議員

・五輪での感染者の2/3以上は国内の運営関係者であり改めて対策徹底を指示している。引き続き組織委員会と連携しながら感染症対策の強化を図っていくとともに、プレーブックにおいては、介助者の衛生管理の徹底等の追加対策も明記している。



丸川大臣

◆矢田議員からのメッセージ

変異株による都市部での爆発的な新型コロナ感染が、地方にも広がりがつあります。救える命を救うために、早急に国会を開いて実効性ある対策を打つための法整備や予算審議について論議すべきであり、求めていきます。

矢田わか子



感染拡大と治療薬

矢田議員が掲げている政策の3本柱「働く」「暮らす」「育てる」の中から、国会で審議されている等のホットな話題を選び、政策コラムとしてお届けします。



デルタ株が猛威を振るい、全国的に医療崩壊の危機に瀕しています。人流抑制や飲食店等の営業規制が効果を上げない中、この状況を脱するには、①ワクチン接種の促進、②検査体制の拡充による感染者の早期隔離、③軽症・中等症患者の重症化阻止の三つしかありません。

中でも重症化を防ぐ治療薬の投入が期待されます。現在、政府が承認したコロナ治療薬は、最近承認された「カクテル療法」など4種類です。いずれも米国など海外で開発されたものですが、実は国内でも多くの製薬会社や研究機関が治療薬の研究・開発を行っています。

しかし、我が国ではサリドマイドや薬害エイズに見られたように、過去の薬害問題から新薬の承認には非常に厳しいルールが課されています。特に効用と副作用を確認する治験に多大な労力と時間を取られ、現在、日本生まれのアビガンやイベルメクチンという優れた治療薬もその承認に時間がかかっています。

今日の大規模災害級の感染状況を考えれば、国会質問で取り上げたように、ウイルスの増殖抑制に効果があり一定の安全性が確認できれば、国として早期に認可を出すべきです。

現代の薬学と製薬産業は、化学的知見とともに薬草の効用なども取り入れながら、多くの新薬を開発してきました。当然、全ての薬には副作用がありますが、正しい服用によって副作用を押さえることができ、簡単な処方済む薬は市販もされています。デルタ株の感染拡大により重症者数が過去最多となる中、コロナ治療薬についても一刻も早い市販薬レベルの治療薬の開発・承認が期待されています。



「治験中の新型コロナウイルス感染症

治療薬はどれくらいあるの？」

日本で治験中の治療薬は、アビガンやイベルメクチンを含め主なものでも9種類あります。現在、東京だけでも自宅療養者や入院・療養調整者が3万人を越える中、経口剤が自宅療養者に配布されれば重症化の心配から解放されます。今救える命を救うために、厚労省は治療薬の承認を急ぐべきです。

治験中の主な国産治療薬

治療薬名	投与方法	対象	種類	備考
ファビピラビル (アビガン)	経口	軽症～中等症	RNAポリメラーゼ阻害薬	令和2年10月に製造販売承認が出されたが、有効性をめぐり現在、継続審議中。
イベルメクチン	経口	無症状・軽症～	抗寄生虫薬	北里大学病院で治験中。ノーベル賞受賞の大村智氏が発見。
AT-527	経口	軽症～中等症	RNAポリメラーゼ阻害薬	中外製薬(株)で治験中。
S217622	経口	軽症～中等症	3CLプロテアーゼ阻害薬	塩野義製薬(株)で治験中。

公式HP・SNS(Facebook・Twitter・YouTube)もご覧ください

公式HP



「矢田わか子」公式サイト
日々更新中です。皆さんの
お声をお寄せください。

YouTube



やたわかチャンネル
国政での発言、政治問題の解説
など多数アップしています。

twitter



矢田わか子
(国民民主党参議院議員)
国会質疑・トピックスを掲載中！

facebook



矢田わか子を
応援する会

☺ フォロー & チャンネル登録をお願いいたします ☺